

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はご利用者様がその人らしく生き生きと生活できる内容となっており、職員が常に見える場所に掲示している。又、法人内の集まりには復唱し確認し合っている。	開設時に理事長と管理者とで検討し、事業所独自の理念を作成しました。相談室や事務室など事業所内の目に付く所に掲示をする他、法人内の集まり時に全員で理念を復唱するなどして職員に理念を浸透させています。また、職員と一緒にユニット目標を検討したり、職員の個人目標も検討し、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材等の買い物は、ご利用者様と地元のスーパ－を利用し、牛乳・味噌・米は地元の方から購入している。又、近所の小学校の子ども祭りに招待を頂き参加し、地域とのつながりを大切にしている。	事業所にも回覧版をまわしてもらったり、近隣の小学校で行われた子ども祭りに参加したり、地域のボランティアの方にも来て頂くなど、地域との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の方から参加して頂き、理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の現状・サービスの実践状況など報告し、参加者様から意見など頂いている。会議内容は文章にし、玄関に提示し、ご家族様・職員が見れるようになっている。次第と報告は各市役所にも提出している。	ご家族、地域住民、市の担当者、他法人の特別養護老人ホーム施設長に参加していただき、運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、事業所からの報告に加え、参加者から寄せられた意見や要望は参加者の協力を得ながら、計画を立てサービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市の担当者に運営推進会議の資料や議事録を提出したり、入居者の入退去状況の報告などの連絡調整を担当者で行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただき、事業所で作成する広報も市の担当者と地域包括支援センターに持参し、事業所の状況の報告を行うなどして、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみとし、日中も施錠はなく安全に配慮した上でお一人でおひとりが自由に行動出来るような環境作りに努めている。身体拘束に関して、施設内研修で取り入れ、職員間で周知している。	ホームとして身体拘束は行わない方針のもと、玄関の施錠についても夜間のみとしており、日頃の職員の言葉遣いについても管理者が指導を行う等、拘束しないケアが徹底されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、全職員が理解し業務にあたっている。又、業務内でも管理者はじめ職員同士で声を掛け合い虐待防止に務めている。	事業所でも虐待防止に関する研修を行い、職員の理解を深めています。また日常の中で、声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、即検討するようにされています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は実施しておらず、今後学ぶ機会を設け、権利擁護に関して職員一人一人が理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っており、一つひとつ丁寧に分かりやすい説明を心がけている。不安や疑問点があれば、十分な説明を行い、理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様から参加して頂き、意見を伺っている。又、ご家族様からの意見要望に応じられる様、日々業務に取り組んでいる。	日々の面会時、2ヶ月に1度の運営推進会議、サービス担当者会議の他、「家族の集い」として家族会を行っており多くの意見をいただけるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議やリーダー会議で職員同士意見交換を行い、日頃から何かあれば話し合いを行っている。代表者や管理者と話しやすい関係性である。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、日頃の業務の中でも意見や提案を確認するようにしており、その内容を運営に反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員一人ひとりの勤務状況や勤務態度などを把握に努めており、向上心を持って働きかけるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修委員が中心となり、職員個々の努力や実績に基づき、適切な研修に参加できるよう機会を確保している。又、施設内外の研修に参加させることで、スキルアップを図れる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域研修への参加を通じて、同業者と交流できる機会を設け、意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様から困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け、ご利用者様が安心して頂けるような信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族様が困っている事・不安な事・要望などあるか耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様・担当職員・管理者・ケアマネージャーと相談し、よりよい支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの得意な家事作業等を把握し、お礼を伝える事で、暮らしを共にし支え合える関係を築けるよう努めている。又、人生の先輩として尊敬し学ばせて頂く姿勢を忘れないよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、ご利用者様の日頃の様子をお伝えしている。情報を共有することで、共に支え合う関係を築けるよう努めている。	事業所広報を作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、サービス担当者会議にはご家族にも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	調査時点で事業所広報の送付が不定期になっていましたので、定期的に送付できるように体制を整えられることを期待します。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時季の行事・外出・外泊で、ご利用者様の馴染みのある場所へ出かけている。又、ご利用者様の近所の方や友人が面会に来て頂ける雰囲気作りを行っている。	ご近所の方や友人に面会に来て頂いたり、お正月に自宅に帰られたり、ご家族の協力を得てなじみの床屋へ出かけるなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ作業が出来る場等で、職員が話題を提供し、ご利用者様同士交流できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族様から相談があれば、出来る限り応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向・思いをくみ取るよう努めている。又、意思の疎通が難しいご利用者様には、ご家族様の方から話を伺ったり、表情や仕草を通して、本人の思いに添えるよう努めている。	日常のやりとりでご利用者から頂いた要望についてはできるだけすぐに対応するようにしています。また、日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方など、日々の会話の中で確認したり、ご家族様からお話を伺い、本人の思いに添えるよう努めている。	センター方式の書式を活用し、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報を整理しています。また、日々のやりとりの中で確認した新たな情報についても定期的に更新するようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にご利用者様の生活記録に目を通し、日々の様子や身体状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスはできる限りご家族様に参加して頂き、意見や要望などを伺っている。介護計画は1年に1回見直し、状態に変化がある場合は、都度現状にあった介護計画を立てている。	サービス担当者会議の出席が困難なご家族へも、介護計画の立案に加わっていただくよう、来訪時に介護計画に関する意見や要望を伺うよう工夫されています。また、サービス担当者会議を開催し、見直しを行うのみならず、毎日の経過記録の記入による評価と毎月のモニタリングにより、状態やニーズと計画にギャップが生じる場合は即座に見直しが行われています。	調査時点で介護計画書の日付に誤りがある方やモニタリング項目のチェック漏れがある方もいましたので、チェック体制を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には、サービス内容が記録されており、日々の様子・ケアの実践結果・気づきや工夫を記入している。又、毎月のモニタリングではこれらを参考にし介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が近隣におられないなど、特別な事情がある場合、受診やクリーニング等職員が対応・代行をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容師の出張サービス・歌や踊りのボランティア・地元の小学校の行事や地域行事にお誘い頂き、参加させて頂いた。又、選挙時には近隣の会場へ投票へいき、交流を深められる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医に受診をお願いしている。必要に応じ、ご利用者様の様子や相談事を手紙にしたり、職員が受診へ同行し、詳しく説明させて頂いている。	往診にも来て頂いているほか、ご本人、ご家族の希望する医療機関にて受診してもらい、必要時には事業所からの手紙を書き、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が勤務している。ご利用者様の体調面について相談し指示を仰ぎ、夜間帯も連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者(ケアマネ)や看護師が病院の医師や相談員・看護師と話し合いを行い、情報交換を行っている。退院後の対応についてもアドバイスを頂き、ご利用者・ご家族様が安心して頂けるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合には、ご家族様と相談しながら意向を踏まえ、対応方針を考えている。契約の際に、グループホームでできる対応・限界についての説明を行い、納得・同意を頂いている。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し、同意を得ており、医療的な支援が必要な場合は特養や病院に移っていただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修を行い、全職員の能力向上に努めている。AEDを設置しており、救急隊の方から使用方法や心肺蘇生法の指導を年に1回受講している。	急変時に適切な初期対応ができるよう、普通救命講習に参加したり、事業所にて緊急時対応や救急搬送要請時の対応について研修を行っています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、全職員の能力と手順の再確認を行っている。訓練の際には消防隊員にも立ち会って頂き、的確なアドバイスをいただいている。災害マニュアルや職員の連絡網を作成し、非常食も備蓄している。	事業所では日中の火災を想定した避難訓練を定期的に行っており、地域の方にも協力要請をしているほか、非常用の食品や水も確保されています。	夜間を想定した避難訓練も定期的実施し、災害時に適切な対応がとれるようにされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明を行い、同意を頂いている。又、広報・ホームページに関する説明も行い、同意を頂いている。ご利用者様に対する対応や言葉遣いは職員間でも声をかけあって、常日頃より注意しあっている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で選択肢を用意し、できる限り自己決定ができるように対応を行っている。又、表情や仕草から思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりの入居前からの習慣や生活のペースに配慮して、1日1日を過ごして頂いている。又、レクリエーションや行事等、無理強いはずにお誘いしながら、他のご利用者様や職員との交流も大切にさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師の出張サービスに来て頂き、散髪や髭剃りをして頂いている。毎日着る服を、ご自分で選んで頂いたり、選択肢を用意して服を選ぶ楽しさを感じて頂けるよう努めている。ご自分で身だしなみを整えるのが難しい方には、季節に合った衣類を着られるよう職員がお手伝いさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは季節の物を取り入れ、時には外食や出前を利用している。調理作業や盛り付けなど、ご利用者様の得意な事をお願いし、張り合いが持てるよう支援している。	食事の準備や後片付けも職員と出来る範囲でご利用者が共同で行われています。事業所の畑で野菜の収穫と一緒に楽しんだり、外食や出前を取る機会も設け、食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは1日30品目以上を目安に作成し、栄養のバランスに気を付けている。水分摂取量についても細かく記録し、摂取量の少ない方へは好まれる飲み物を用意したり、ムセ等ある方へはとろみをつけたりゼリーを用意する等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、声掛けや介助を行っている。義歯を使用されている方には、週2回義歯のポリドント消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握するよう努めている。定時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄補助を行っている。夜間はリハビリパンツ・パットを使用しているも、失禁を軽減し、細目にトイレでの排泄を促している。	排泄パターンの把握するまでは排泄チェックを行い、オムツの使用を減らせるような取り組みや、日中は出来る限り布パンツを使用させて頂くようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を確認し、排便が見られない場合はご家族様や担当の医師と相談し下剤を服用して頂いたり、水分を多めに摂取して頂き、体調管理に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日のご利用者様の体調を見て入浴して頂いている。気持ちよく入浴できるよう、背中を洗ってさしあげる等、工夫している。	入浴のスケジュールは作成するものの、気候やイベント、ご利用者の希望や気持ちに応じた柔軟な対応が図られています。また、入浴を嫌がる方への声かけの仕方やタイミングが職員間で共有されています。	調査時点で事業所都合での入浴ができない日がありましたので、体制を整え、ご利用者の要望に合わせた入浴が提供されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファにて休息をとって頂いたり、必要に応じて居室で休んで頂いている。夜間入眠して頂けない際は、安心して頂ける声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を理解し、体調の変化にすぐ対応できるように努めている。薬の服用は職員2人で確認し、確実に飲み込むまで付き添っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて会話・レクリエーション・家事作業をして頂いている。喜んで頂けるよう工夫し、ボランティア・外出・談話等で気分転換を図って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物や、天気の良い日には外へ散歩して頂けるようにしている。季節に応じて外出の計画を立てている。又、ご利用者様の希望で、ご家族様に協力して頂き、外出や外泊の機会を設けている。	天気の良い日は散歩をすることや、買い物などのドライブをするなど、可能な限り戸外に出られるよう支援されています。また、季節に応じたお花見、紅葉見学、いちご狩りなどの外出行事を企画し、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いは事務所の金庫で管理している。ご利用者様・ご家族様からの希望で、飲み物等好きな物を買わせて頂く事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や親戚の方からの手紙が届いた場合には、ご本人様にお渡ししたり、職員が読んで差し上げている。ご家族様への電話を希望される方へはお繋ぎし、お話して頂いたり、都度安心して頂けるような声掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に行事の時の写真を貼ったり、季節の花を飾ったりするなど、見て楽しんで頂けるよう工夫している。	廊下の数箇所にソファが配置され、休んだり集ったりすることができるよう配慮されています。また床暖房や加湿器による湿度対策も行われています。また、装飾は華美にならず、職員が知恵を出し合い適度にご利用者の作品や心を打つ良い言葉などが目線を配慮して飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファでゆっくりと音楽番組をみて頂いたり、食席で向かい合って会話して過ごせたりと、お一人おひとりがゆったりとした時間を過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で植物をみて楽しまれたり、裁縫をされたり好きな時に好きな事ができる様、さりげなく見守りを行っている。	使い慣れたラジオなどの愛着のある品物を持ち込んでもらえるようお話しし、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前のネームプレートを見て、ご自分の部屋の場所やトイレ等、判断できる様、大きく表示させて頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない